

内容の無断転載を固く禁じます

防災・BCPアップデート講座 (4)

被害想定 of 戦略的な活用



【講師略歴】

BB.univ 学長 WOTA株式会社 防災・BCP担当室長 森 健

- ・ 1966年東京都出身。開成高校・慶応義塾大学法学部卒業。
- ・ 静岡県下田市役所、静岡県庁防災局出向（現：危機管理部）を含め、約12年間地方自治体で実務経験を積む。その後企業へ転職。
- ・ 自動車部品グローバルメーカーである住友電装株式会社においてグローバルなリスク管理体制の再構築を手掛けるなど、複数社で管理職としてリスク管理・危機管理の指揮をとる。
- ・ 2019年9月よりWOTA株式会社総合企画室長に着任。
- ・ 2020年9月よりBB.univ学長に就任。
- ・ 2021年4月よりWOTA株式会社防災・BCP担当室長に着任。

BCPの全体構造&今日のテーマ

第1章 BCPに関する基本的な考え方

第2章 対象リスクと被害想定

第3章 緊急時対応計画(初動対応)

第4章 災害時優先業務

第5章 BCP活動の推進(BCPの維持管理)

計画の実効性を画する第2章

第2章 対象リスクと被害想定

1. 想定リスク
2. 対象リスクごとの被害想定

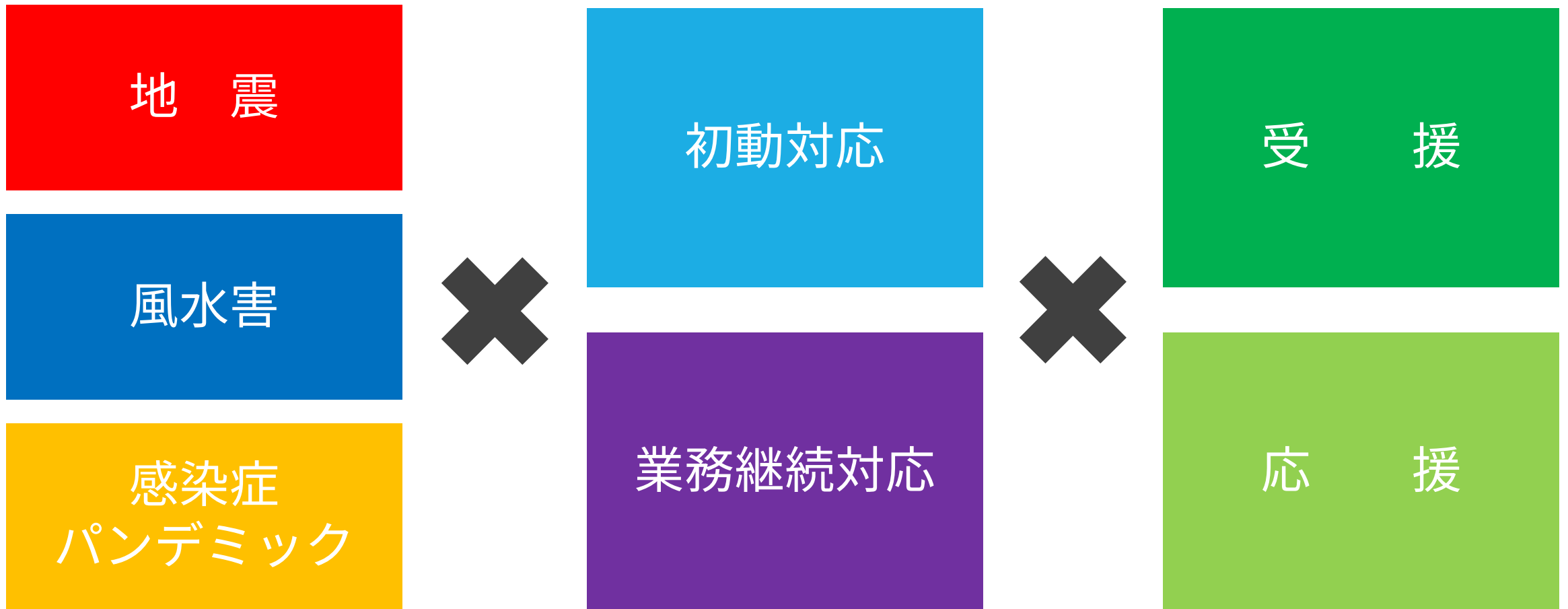
想定リスクの選び方①

想定する危機事象を選定するに当たり、本庁舎は応急業務の中心的な役割を担うことから、被害想定やハザードマップ(地震、洪水、内水、高潮、津波、土砂災害、火山)等を参照し、「本庁舎が最も被害を受ける災害」を想定することが望ましい。

また、都道府県や面積の大きい一部の市町村は、「本庁舎が最も被害を受ける災害」以外に、「本庁舎の被害は少ないが、出先機関等を含め地域全体が被害を受ける災害(例:海溝型地震)」も想定対象となりえることから、想定災害は、各地方公共団体の実情に応じた災害を想定することが望まれる。ただし、実際の災害やその被害は、想定どおりでなく幅があり、想定を上回る可能性もあることも念頭におく(※1)。

発災条件としては、早朝や冬季夕方等できるだけ業務継続が困難な条件を設定する

想定リスクの選び方② ～対応の基本パターン～



結果事象によるアプローチ

東日本大震災では、一定の地震のみを想定する事業継続計画しか持っていなかった企業が、なすべがなかった状況が発生した。この観点から、内閣府「事業継続ガイドライン第3版」（平成25年8月）では、4.1節で「自社に生じた事態を原因事象（例えば、直下型地震）により考えるのではなく、結果事象（例えば、自社の〇〇拠点が使用不能）により考え、対応策を検討することが推奨される。また、この観点では、個々の重要な要素について代替を確保する代替戦略が幅広い発生事象に対して共通して有効となる可能性が高い。」とされている。

例えば、第一に、本庁舎が使用可能な被害レベル、第二に本庁舎は使用不能になるが、近隣の代替庁舎は使用可能な被害レベル、第三に、本庁舎も近隣の代替庁舎も使用不能で、遠い第二の代替庁舎に移る必要がある被害レベルを考え、レベルごとに対応策を考えていくなどが考えられる。このような考えであれば、災害の種類を問わないし、被害想定を上回っても想定外になりにくい。既にこのような考え方を取り入れている地方公共団体もあるので、同ガイドラインを必要に応じて参照することも有効である。

危機管理の基本を大切に

- 「最悪の事態」に備えるのが危機管理の基本である。当該自治体にとって最も好ましくない被災シナリオを念頭に置く必要がある。
- 「想定外」という言葉は、想定を怠った者の言い訳に過ぎない。
- そもそも「想定通りの災害は発生しない」ことを想定しておく必要がある。

対象リスクごとの被害想定（地震）

一般的な被害想定項目

- 前提条件（冬の朝6時、北西の風×メートル等）
- 人的被害
- 物的被害
- ライフラインへの影響



BCPに必要な被害想定

地震に起因する人的被害、物的被害が各業務の継続にどのような影響があるか？

そもそも被害想定のはどこにあるのか？

被害シナリオにより対応戦略を整理

	地震発生直後	1時間以内	…	…	4日目以降
● 自然現象	<ul style="list-style-type: none"> ✓地震発生、余震継続 ✓津波、液状化、山崖崩れ 	<ul style="list-style-type: none"> ✓余震継続 ✓津波襲来継続 			
● 周辺地域の被害	<ul style="list-style-type: none"> ✓建物倒壊 ✓火災発生・・・ 				
● ライフライン状況	<ul style="list-style-type: none"> ✓電気、ガス、通信障害 ✓上下水道管破損 				
● 自組織の被害	<ul style="list-style-type: none"> ✓建屋被害 ✓職員等死傷 				
● 対策本部の対応	<ul style="list-style-type: none"> ✓避難誘導、救出・救護 ✓情報収集・被害掌握 ✓通信手段確保 	<ul style="list-style-type: none"> ✓対策本部設置 ✓他拠点・他組織等との連携開始 ✓他組織へ応援要請 			
● 部門別の対応	<ul style="list-style-type: none"> ✓幹部安否確認 (秘書) ✓職員安否確認 (人事) 				

地震発生時にどのような被害が発生するかについて時系列にシナリオ形式で整理する（自然現象、周辺地域の被害、ライフライン状況、自組織の被害）

時系列にシナリオ形式で整理した被害想定に基づいて、理想的な対応はどうあるべきかを議論し、これも時系列に整理しておく（災害対策本部の対応、各部門・各班の対応など）

被害シナリオ ⇒ 理想の対応戦略 ⇒ 事前対策



被害想定どおりの災害は起きない。

被害想定は対応戦略整理と事前対策洗出しのための「基本問題」
基本問題の学習で培った力を武器に、現実の災害という「応用問題」に挑戦していくのが防災・BCPである。

ご清聴頂きありがとうございました。

アンケートにお答えいただいた方に、本日の資料を配布しております。
今後の情報発信に役立てるためにも、ぜひご協力ください。

